

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	有限会社 ホワイト介護
(ユニット名)	グループホーム 箕田の北さんち
所在地 (県・市町村名)	三重県鈴鹿市
記入者名 (管理者)	伊藤 正弘
記入日	平成 20 年 7 月 14 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は重点項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域の中でその人らしく暮らし続けるには、施設内の課題として認知症の人間であっても、一人の人格の有る人間として「自分の生き方は自分で決める」と言う自己決定に基づいた、自立した行動を支援する。</p>	○	左記の支援が達成される事により、自ずから地域の中でもその人らしく暮らし続けることが出来るようになる。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	職員は、個々に上記理念を念頭に置き、日夜理念の達成に向けて業務に取り組んでいる。		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	施設・家族での理念の理解は十分とはいえないがほぼ達成されていると考えるところである。だがまだ、地域への浸透までには及んでいないと思う。	○	今後は、積極的に地域に入り理念の啓発に組みたい。
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	近隣の方々には朝・夕の挨拶はもとより、散歩等出かけた際にも、出会った人達にも挨拶を行うように心がけている。	○	今後は、施設内に於いて地域住民が気軽に参加できる行事等を開催し、地域に打ち解けて行きたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地元地域での祭り等には、機会あるごとに有る毎に参加するよう努めている。	○	今後は、自治会・老人会活動等にも積極的に参加したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在は実施していない。	○	今後は、施設内に於いて地域住民が気軽に参加できる行事等を開催し、地域に打ち解けていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者等職員は改善可能な事項から順次取り組んでいる。	○	評価結果を真摯に受け止めたとえ年に1項目でも改善達成できるよう無理なく行ないたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の議題として取り上げ、委員各位より意見を求め改善可能な事項からサービスに取り込んでいる。	○	地域・家族の協力が必至な事柄に関しては徐々に理解を得ながら実現に向かって努力したい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	まず、交流の切っ掛けとして、施設の機関紙等を郵送ではなく、直に手渡し担当者との連携作りの足固めを行なっている。	○	機関紙等で施設のPR行い、連携の基礎が確立したら施設独自の特色あるサービス作りを行ないたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	施設内研修として、総合施設長を講師として全職員を対象に研修の場を提供している。又、管理者は県・協会等の研修会にも積極的に参加している。	○	施設外の各種研修会にも職員全員が研修できるように努めたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記研修に加え、管理者は県・協会等の関連した研修会にも積極的に参加をし、施設内虐待防止には職員一丸となり努めている。	○	施設外の各種研修会にも職員全員が研修できるように努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には必ず家族等十分話し合い、納得を得て締結している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者、職員は利用者の意見等は随時耳を傾け聴く事になっている。又、玄関先に目安箱を設置し家族等の意見も拝聴できるようにしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	医療機関等の受診結果については特別な変化が診られた時には、随時報告をFAX・電話等で報告している。又、金銭管理等については、家族が訪問の際金銭出納帳を閲覧してもらう。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定例の家族会・施設設置の目安箱等で意見、不満等を聴取している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティング、月例の職員会議等で意見を聞き適時に反映している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	当該事案が生じた時には、随時職員間で調整を行って対応している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	本件に関しては常に念頭に置き配慮している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修については経験年数等に応じた内容で研修を全職員を対象に行なっている。	○ 今後は、法人外研修の受講の場を積極的に取り入れて行きたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地区(鈴鹿・亀山)の同規模の施設とは年に1度合同で利用者の作品展を共同企画しその会議毎に情報交換等を行っている。	○ 今後は、作品展を皮切りに、施設間で研修会、職員の親睦会等を行いたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	多忙で、ついにりにくい休憩時のを完全実施、有給休暇の完全消化等心身のリフレッシュに努め、年に数回親睦会を開催し、ストレス解消を図っている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々の努力により資格等を取得した場合、各自の給与面に反映するよう考慮する。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に事前に家庭に訪問し、本人の生活リズム・生活史・家庭環境等情報収集を行ったり、デイサービス・体験入所等利用により聴取している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	前項の取り組みを踏まえ、家族に施設見学・他の入居者の日常生活の実態を把握してもらい当該家族の不安解消に努めている。	○ 家族に安心感を抱いてもらうため、電話を利用したり、可能な限り施設に足を運んでもらいコミュニケーションを図っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは、本人・家族にとって何が問題であるかを十分把握した上で、当施設での受け入れにつき検討を重ね受け入れてはいるが、入所後に新たに問題が発生する事が多々見受けられるが敏速に対応するよう努めている。	○	特に医療面での情報収集が把握しにくいいため、気軽に相談に応じてもらえるDrとの連携を密にし、適切なサービス提供につなげている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	設問23でも記述のように把握した情報を基に、入居前のデイサービスの利用、及び2・3泊の体験入所を重ね徐々に施設への順応性を養うと共に家庭での馴染のある衣類・道具等で新生活の雰囲気に溶け込むようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個々の入居者の有する力を見極め、役割や、出番を見出す工夫をしている。(掃除・食器、テーブル拭き・洗濯物たたみ等)得意分野(調理・掃除等)で力を発揮してもらい、お互い様という気持ちや感謝するという人間関係を築いている。	○	職員が入居者に助けてもらったり、教えてもらったりする場面をできるだけ提供して行きたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族等の施設での面会時間の制限等は設けていないので、何時でも自由に訪問してもらえる環境であり、又受診の際、可能な限り同行してもらい、現状を把握してもらうようにしている。	○	本人の喜怒哀楽を共有してもらうため、受診の同行はもとより、施設での諸行事等への積極的な参加を呼びかけて行きたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族会を設け家族同士の集まりの場でざっくばらんな意見が出るようにしている。又家族と本人の間にさりげなく入り家族関係の潤滑化を図っている。	○	定期的な訪問、家族旅行、外泊、外出等が気軽に出来るよう支援して行きたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近代化が進み、馴染みの道、建物等昔に触れる事が困難な状況であるが、可能な限り散歩、ドライブ等に出かけている。	○	個々の故郷ドライブ等を順次行い、未だ記憶に残る地元の旧跡等に行き、昔に触れてもらいたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	居室にこもりがちな人には、その都度声掛けを行い、仲間同士の輪に入ってもらい、職員も輪に入り、切っ掛けを見つけ話題の中に入り、話を広げ皆が楽しめる場作りに努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期入院による退所の後も、見舞いや、家族への電話連絡等でその後の状況の把握に努めている。又、他施設への転居者でも、当該施設に訪問の際は、面会をして話をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り継続した生活リズムを崩さないよう、個々を把握し、プランに沿った個人に合ったケアを心掛けている。	○	個々のケアプランを職員各自が常に把握し日常のケアを一貫して行なう。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族との情報交換、施設職員との対話の機会を多く持ち、より深く一人々々に接している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の言動、健康状態を把握し、一日の生活を規則正しく行ない残存機能を低下させないように接している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員からの情報や、毎月のケアの中から問題点を導き、個々の特性を生かした介護計画を作成している。	○	個々の介護計画を、職員は常時念頭に置き一貫した介護を行なうように努める。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	機械的に介護計画を更新するのではなく、入居者の状況や希望を良く知る職員の情報に基づき、現状に即した計画作りをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者と寄り添い、ケアする事や、何気ない会話の中から異変や体調の変化を汲取り、要求が何であるかを察知し、今後の計画に役立てている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスでのサービスの一部を(リハビリ・レクレーション等)をグループの職員により共有している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要に応じ運営推進会議に消防等の方にもメンバーとして参加してもらい協力体制について協議している。	○	今後、推進会議で提案された関係諸機関と連絡を密にし協働体制の推進を図りたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在は実施していない。	○	積極的に事業者同士が前向きにサービスに取り組んでいくため、交流の場を多く設けていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入居者の地域での継続的な暮らしを良いものにしていく視点に立ちセンター等と積極的に関係を作り情報交換や相互協力等連携を図っている。	○	運営推進会議をとおして協働の推進を図りたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月定期的に主治医により往診を受けている。又、入居者の異状にも連絡すれば、随時適切なアドバイスを受けることができる。	○	入居者が受信する際、ストレスや、体力負担を軽減する為の配慮をしてもらうよう個々に合わせた受診の仕方相談や、対応策を医療機関と話し合っ行ってきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居者は身体的な訴えをする事がない。その為職員が日常的な暮らしの中で異状や異変を素早く察知し、受診時に報告する等医療との連携を図っている。	○	家族等が受診不可能で本人が受診が出来なくなならないよう通院支援の役割分担や確保のあり方について方策を立てる。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	毎日バイタルチェックを行い、日々の健康管理をしている。又、月に一度体重測定を行い、体重のチェックをしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家族に経過をよく説明し、密に相談を行い早期退院について、家族と医療機関との話がスムーズに行えるよう支援している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の意向を重視し、可能な限り苦痛を与えず、環境も変えることなく日々過ごせるよう心がけている。が、グループホームでの生活に限界が生じる事により、予期無く退所を検討してもらう場合もある。	○	利用者にとり最善の方向は何か？を職員が一貫となって検討する機会の場を多々設ける必要性を感じている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療関係者との連携を密にとり職員の個々一人一人が病状的確に把握し変化に対処できる体制を整えている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ネット情報や、施設のパンフレット紹介等を利用し、適切な施設があれば事前に十分な説明を受け、見学し、納得できる施設が見出せるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	他の入居者の面前であからさまな介護したり、大声で誘導の声掛け等をして本人を傷つけないよう、目立たずさりげない介助を日々心がけケアに取り組んでいる。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	その時々に応じ可能な限り時間を掛けて話を聞き、納得のいくまで話をするよう心掛けている。	○ 入居者各自に、気持ちの張りや潤いを持ってもらえるよう、個々に合わせた声かけや、スキンシップを心がけていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人のペースに沿って見守りながら一緒に生活を送っている。入居者の動作が緩慢になったり、行為が中断しても、職員は急かす声かけをすること無く、その人の状態に合わせてケアをする。	○ 業務を優先するのではなく、なるべく入居者と向かい合う姿勢をでケアして行く努力、工夫をしていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容 美容は本人の望む店に行けるように努めている	月に一度美容師に来てもらい本人の希望の髪型カットしてもらっているが、余り個性的では無いように感じる。中には行きつけの美容院で行う人もいる。その時は、家族が送迎してくれるので触れ合いの良い機会であると思っている。	○ 四季に応じ近隣のショッピングセンターへ出かけ、認知のレベルや年齢にとられないその人らしい個性あるお洒落を取り入れるよう配慮していきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後には、職員と共に食器の後片付けを行ったり、ゆとりの時間を見つけ野菜の下準備や、買い物にも一緒に出かけるようにしている。	○ グループホームの特性を踏まえ、職員も一緒に食事を楽めるあり方を前向きに検討していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつは施設にて提供している。又、本人が希望するものは、家族が訪問時に随時を持って来てくれる。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の意思は本人の決定に任せる。時間帯については、デイサービスを併設している関係で、自ずと施設の時間に合わせ、その時間帯で各自が順次行っているのが現状である。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の意思により居室で過ごしたり、皆の集まる食堂で他の人との交流を楽しんでいる。眠れない人については原因を見極め、その人本来のリズムを取り戻せるようリズム作りを支援している。	○	夜間徘徊で安眠できない方には一緒に添い寝をしたり、飲み物などを一緒にとり気持ちが安らぐよう支援していきたい。
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	認知度が進行しても、個々の入居者の有する力を見極め、役割や、出番を見出す工夫をしている。(掃除・食器、テーブル拭き・洗濯物たたみ等)又、外食や外出、ショッピング等を随時行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分の所持金の把握、管理の出来る入居者は希であるが、その方々には一緒に買い物等に出かけている。	○	施設で金銭を管理している方たちでも買い物時にはお金を所持してもらい自分自身で物を選んだり、支払いをしてもらうよう支援していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	家族の面会時に一緒に食事に出てもらったり、時には施設から外食に出かけたり、又、散歩の帰りに近くのファミレスに立ち寄り、ティータイムなど行っている。又、出来るだけ戸外へ出かける行事等計画をたてている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に数度、近くにショッピング、又、四季に応じ外出している。	○	家族交流を兼ね、日帰り温泉旅行等を全員を対象に実施してみたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を出したい方については、封書・切手等提供し投函するようにしているが、需要は皆無にちかい。電話も要求があれば取次ぎを手伝っている。	○	手紙が書けない方には、本人の依頼により代筆してやり、手紙のやり取りが出来るようにしたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の制限は設けず、家族や、知人が訪ねてきた時には、お茶などを飲んでもらいながら、ゆったりとくつろげる時間を提供している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には全てにおいて拘束は行わないが、安全確保、緊急時等、やむを得ない事情で拘束が必要な場合は、拘束の方法、理由、目的、期間等明記し、家族から同意書を得ている。	○	転倒等の入居者が抱えるリスクに対し、身体拘束をしないで済む介護上の工夫をしていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	設問については、全職員は個々十分理解している。入居者が徘徊し出て行きそうな場合は制止せず、職員がさりげなく付き添い、本人が納得するまで行動をともにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ケアの途中で、やむを得ずその場を離れるときには、必ず他の職員に声を掛け、その場を引き継ぎ離れるようにしている。日常の記録に関しては入居者に悟られず個々に目の行き渡るリビングで安全に配慮しながら記録している。	○	昼夜共に職員は見守りやすい位置に居ようチームで徹底して行きたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や洗剤、刃物等の注意が必要な物品に関しては保管場所を取り決め、安全確保に努めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	全職員を対象に救急法等の実技講習会を開催し知識の向上に努め、又、災害時の対策として消防訓練時に消防署職員より指導を受けその知識をヒヤリハットを基に取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員を対象に救急法等の実技講習会を開催し知識の向上に努め、又、災害時の対策として消防訓練時に消防署職員より指導を受けている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の訓練は定期的に行っている。又、日中・夜間等の避難マニュアルも整備できている。	○	地域の協力体制が今ひとつであるので、今後運営推進会議等で、地域での協力体制の充実を協議して行きたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	残念ながら、今現在においては何も行っていない。	○	今後は前向きに検討する必要性有り。家族会で個別的に懇談するのも一方案でも有る。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に個々の顔色や様子に注意し日々暮らしを共にする中で兆候を見落とさないよう職員に徹底している。又、日々バイタルチェックを行い、個々に記録し情報共有化している。	○	異変が見られた時には、素早く医療関係者等に連絡、相談し助言を求められる体制を確立したい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬に関しては全職員が熟知している。薬の変更や、副作用については必ず連絡帳に明記し、職員全員が把握できるようにしている。	○	漫然と服薬支援を続けるだけではなく状況のチェックを記録し、家族や医師に適時提供できるよう支援したい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個々の日々の暮らしの中で、食事・排泄・活動状態等を見直し、自然排便を促す工夫を個別に行っている。	○	繊維質の多い食材を多く取り入れ、散歩や体を動かす機会を多く設けて行きたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	基本的には本人に任せてあるが、個々の現状を把握し、困難な人に対しては、状態に応じて職員が支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養バランスを考慮し献立を作成し、その日の個々の残食料をチェックし記録している。又、大まかな摂取量を把握し水分摂取にも配慮している。</p>	○	<p>摂取量のみならず、食事のしぐさや、表情にも気を付けて観察し記録に残して行きたい。</p>
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>取り決めに従い、インフルエンザの予防接種は毎年家族の承諾を得て実施している。又、来客・入居者・職員等問わず、戸外からの立ち入りに関しては、うがい、手洗い消毒等で予防に努めている。</p>		
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>食材の買い置きは極力避け、毎日近所の店から納品している。当日の材料を翌日へ繰り越さないよう、その日に消費するように心掛けている。又、厨房器具については除菌消毒を励行している。又、衛生管理に関して日々記録している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>来訪者の方には常に笑顔で接し、玄関に四季折々の草花を飾ったり、入居者さん達の手芸作品等を展示したりして、極力家庭的な雰囲気作りに心掛けている。</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>全体的に殺風景な感じは無く、四季折々の花や皆で作った季節行事の作品等を飾ったりして季節感を出している。</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下の空間を利用してソファや畳を敷き、雑談や日向ぼっこ等仲間がくつろげる場所を、と、考えた。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族は入居時に、新品の生活用品を持参しがちであるので、家族に対し入居者が安らぎが得られるよう、馴染の物、古い物などを極力持参してもらうよう働きかけている。	○	持参品が少なく寒々としているときは、部屋が殺風景にならないよう、個人の安心できる居場所を提供する為にも、施設側で家庭的雰囲気作りを支援して行きたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	部屋の温度を的確に把握するため、個々に温度計を設置し、状況に応じ適宜空調を行っているが、適時に窓を開けて自然換気に努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の共有スペースには、安全確保のため手すりを設け、機能維持を目的とした家具の配置に配慮し、又、押し車・車椅子等自由に利用できるよう配備してある。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	壁面に手作りカレンダー等を展示し、季節・日にち等が自覚できるようにしたり、居室に表札を掲示し自室の認識を持てるようにしたり、又、トイレの案内表示を多数設置し、自覚への支援をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関や施設周辺の花壇の手入れ・水やり・洗濯干し・日向ぼっこ等行っている。又、気候の良いときなどには、中庭でおやつやティータイムを摂り通常とは変化のある時間作りをしている。	○	施設周辺の畑を一部借りて、野菜作り等を行いたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「箕田の北さんち」を、自分の第二の家庭で暮らしているのだと言う安心感を抱いてもらう為、自分の生き方は自分で決める、その事が、認知症を患った人間にとって、限りなく人間らしい幸せを持った老後の生活につながると言う事を基本とし、自己決定に基づいた生活（自律）を支援して行きたい。